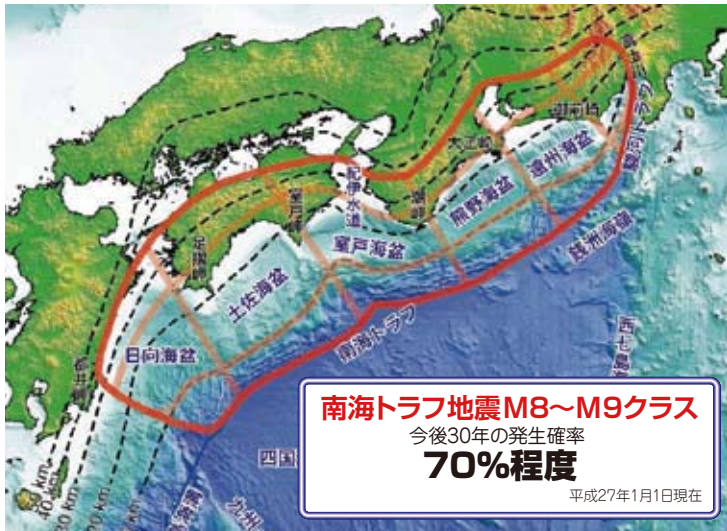


地震の基礎知識

▼大規模地震の今後30年の発生確率について



(出典:南海トラフの地震活動の長期評価(第二版) 概要資料/地震調査研究推進本部に加筆)

主な被害想定結果

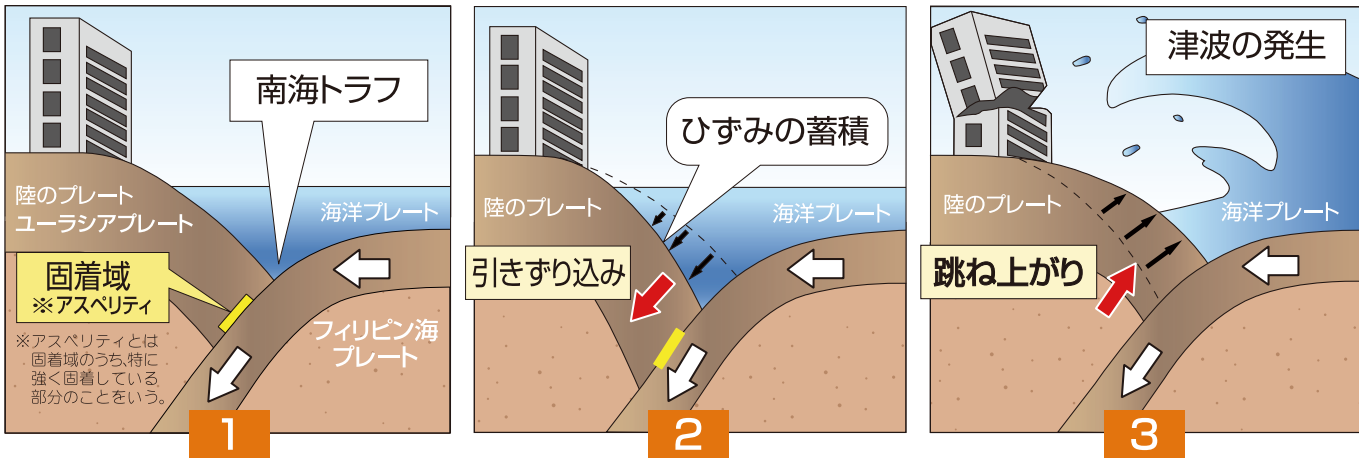
想定地震の区分	過去地震最大モデル [※]	理論上最大想定モデル [※]
<全壊棟数>	約94,000棟	約382,000棟
うち揺れによる全壊	約47,000棟	約242,000棟
うち浸水・津波による全壊	約8,400棟	約22,000棟
うち液状化による全壊	約16,000棟	約16,000棟
<人的被害>	約6,400人	約29,000人
うち建物倒壊等による死者	約2,400人	約14,000人
うち浸水・津波による死者	約3,900人	約13,000人

「愛知県 東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果(平成26年5月30日公表)」による

※過去地震最大モデルと理論上想定モデルの説明については、P3に記載しています。

従来、太平洋沖の海溝型地震は、東海・東南海・南海の各プレートの領域ごとに規模・発生確率が示されてきました。しかし、東日本大震災の発生後、評価手法の見直しが行われた結果、現在は、**南海トラフ全域での規模・発生確率**が表示されるようになっていました。その規模はM8~M9クラスで、**今後30年以内の発生確率は、70%程度**となっています。(平成27年1月1日現在)

▼海溝型地震 発生のおこし



海洋プレート(フィリピン海プレート)が陸のプレート(ユーラシアプレート)の方へ移動し、その下へ潜り込む。

陸のプレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが蓄積する。

ひずみはその限界に達したとき、陸のプレートが跳ね上がり、海溝型地震が発生する。その際、津波も発生する。

気象庁震度階級

<p>震度5弱</p> <p>大半の人が恐怖を覚え、物につかまらなさと感じる。食器類や本が棚から落ちたり、家具が移動することがある。</p>	<p>震度5強</p> <p>物につかまらなさと歩くことが難しい。固定していない家具や補強していないブロック塀が倒れることがある。</p>	<p>震度6弱</p> <p>立っていることが困難になる。固定していない家具が移動したり、倒れたりする。耐震性の低い木造建築は傾いたりすることがある。</p>	<p>震度6強</p> <p>はわなと動くことができない。固定していない家具の多くが倒れる。耐震性の低い木造建築は倒れる物が多くなる。地割れが発生することもある。</p>	<p>震度7</p> <p>耐震性の低い鉄筋コンクリートの建物では、倒れる物が多くなる。耐震性の高い木造建築でも傾くことがある。</p>
---	--	--	--	---

※震度は、震源からの距離や地盤の状態によって異なる各地点の揺れの強さ